
つくばみらい市立陽光台小学校区における意見交換会

《 平成 29 年 1 月 26 日（木）午後 7 時 00 分～ 陽光台小学校体育館 》

1. あいさつ

2. これまでの経緯

3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について

4. 今後の進め方について

《事務局から説明》

5 質問・意見交換

市 民： 今日の主目的は統廃合についてということで、どちらかという合わさることについて説明されていると思うが、現状の小学校通わせている者としては、陽光台小学校の分割が気になるところ。こちらについては富士見ヶ丘小が来年の 4 月に開校ということで、どこで（区分が）わかるのか、いつごろわかるのかを教えてください。

事 務 局： 昨日、学区審議会が開催された。正式な答申としては 2 月初旬または中旬くらいに教育委員会に提出される予定である。今、学区審議会での方向性として、陽光台小学校の学区は、今話し合いをしている中ではあるが、陽光台 1 丁目～4 丁目、紫峰ヶ丘 1 丁目、4 丁目、5 丁目、この地区が陽光台小学校区となる予定。それから、富士見ヶ丘 1 丁目～4 丁目、紫峰ヶ丘 2 丁目、3 丁目（仮称）富士見ヶ丘小学校区となる予定ということで、こちらを基本として進めているところである。正式な決定については、答申書を教育委員会の方で頂き、その後、教育委員会において学区を実際にどうするかということで決定をいただき、遅くとも 3 月中旬に告示をしたいと考えている。市民への周知については、4 月の広報、ホームページ、保護者の方々へは児童を通じて、お知らせを配布したいと考えている。

市 民： 今のお話しでは言葉が難しすぎてよくわからなかった。答申とか告示とか教育委員会への対応などは、具体的にはよくわからない。聞きたいのは、いつ学区がわかるのかということ。

事 務 局： 3 月末までに決定するということである。新年度になりまして、保護者様へ通知を

差し上げるという計画である。

市民： 陽光台に住んでいる者だが、うちはもう陽光台で落ち着いてしまっているのだから、と思ってしまおうのだが、紫峰ヶ丘や富士見ヶ丘のお友達は、谷原小に行かされ、陽光台に行かされ、富士見ヶ丘に行かされ、家は変わっていないのに何故こんなことになるのだろうかとも、すごく不思議である。動かされる子供たちのことを考えると、一緒に過ごしてきた仲間と 6 年間過ごして、みんなで卒業を喜ぶところだと思うのだが、細かいところで言うと、卒業アルバムなどはどのように考えているのか。皆で行った行事等を写して卒業アルバムを作成すると思うが、学校がバラバラになってしまって最後の 6 年生の間だけ別の場所に行かされたら、家の場所は変わっていないのに 3 校目となると、その子自身の思い出がないと思う。卒業アルバムはどのように仕上げる予定か。

事務局： 学区は遅くとも 3 月までには決定される。(仮称) 富士見ヶ丘小学校が平成 30 年の 4 月から開校ということで、学区審議会の中でも、やはり色々な学校を転々とするような感じで、小張小学校に行っていたのが、十和小学校に行つて、また陽光台小学校に来て、次は富士見ヶ丘に住んでいるということから富士見ヶ丘小学校の学区になってと、3 回以上転校する可能性があるのではないかという意見もあった。

それに対して、学区審議会の中でも、ある一定の期間の中で、富士見ヶ丘小学校に本当は行くべき子どもでも、陽光台小学校に残りたいという子がいた場合には、制度的に残れる仕組みを考えてほしいという意見があった。特に、紫峰ヶ丘にお住まいの方は、1 丁目、4 丁目、5 丁目と 2 丁目、3 丁目とで別れてしまう。友達は近所なのに、片方は陽光台小学校、片方は(仮称) 富士見ヶ丘小学校というような状況になってしまうので、何らかの形で緩和・柔軟的な考え方を示してほしいという申し入れがあった。全体の流れとしては、その柔軟な考え方を採用しようとなった。何度も移動している子供にとっては、学校が変わる度に新しく友達を作らなくてはならない。それは非常に可哀想なので、それは話し合つて柔軟的に対応しようというような付帯意見も頂く予定になっている。

アルバムについては、例えば 1 年生 2 年生 3 年生で撮った写真が、友達が違う学校に行ってしまったとか、小張小学校、十和小学校、陽光台小学校、富士見ヶ丘小学校と 4 箇所を渡つて動いたとすれば、各小学校(のアルバム)に載っていたとしても、卒業アルバムは最後の部分しかもらえないことになるが、そこは、PTA の中でも話し合つていただかなければならないところかと思う。新しく(仮称) 富士見ヶ丘小学校でも PTA を作らなくてはならない。それから、陽光台小学校の PTA も分割しなければならない。アルバムの作成については、写真を作つてくださる方々と色々と知恵を絞つてやってもらふ以外にないのかなと思う。

市 民： 紫峰ヶ丘に住んでいるのだが、(仮称)富士見ヶ丘小学校、陽光台小学校の境界線については、陽光台小ができるときと同じく、色々な噂が飛び交っていた。思いのほか早く、3月末に結論が出てくるという話だが、学区を分けた時に子供たちがどう扱われるかというのを確認しておきたい。例えば、6年生はあと一年で卒業になるが、それを無理やり引き離して(仮称)富士見ヶ丘小学校に行かせるということになると、先ほどアルバムの話もあったが、どうしても人情的なところは考えなくてはならない。そういうところは例えば選択制にするとか、一方で、それを選択制にしてしまったら、今度はその6年生のお兄ちゃん・お姉ちゃんがいるご家庭で下の子がいた場合に、お兄ちゃん・お姉ちゃんは陽光台小学校で、下の子は富士見ヶ丘小学校になってしまうとか、そのようなところも今後考えていく必要があると思う。おそらく、そこまで話は進んでいないと思うが、今後はそういったことも十分考えていただくと必要がある。また、その上で、今度何に反映されてくるかという、子供のクラスの児童数に反映されてくる。単純に学区割りだけをやっているが、これについては、本当に色々な要素が入ってくる。富士見ヶ丘の方に、また新しい分譲が1つできるという話も聞こえてきているので、今まで想定されていた(児童数の)増え方以上に子供が増えていくと思う。そこで、この中途半端な時期に差し掛かる子供たちをどうしていくのかということと、(仮称)富士見ヶ丘小学校を立てても、教室数が足りなくなった場合に、どのように乗り切るのか考えをお聞かせいただきたい。

事務局： 先ほどのアルバムと同じようなことだと思うが、まず選択制ということについて。ある一定期間の子供たちは、先ほどもお話ししたように3回～4回転校をしており、そして、また転校になってしまうのかというところがある。住む場所によっては、仲のいい友達・仲間と別れなければならない。それは非常に可哀想だということで、こうした場合には、選択制とさせていただいて、(仮称)富士見ヶ丘小学校に行くか、もしくは、そのまま陽光台小学校に残るか、話し合っ決めていかなければならない。これについては、学区審議会の中で、子供たちが一番可哀想なので、なんとかしてほしいということで、選択制について採用を進めているところ。

それから、(仮称)富士見ヶ丘小学校に行くかどうかという状況の中で、陽光台小学校に残った場合、兄弟枠として、下のお子さんも残ることが可能にならないかという意見については、審議会の中でも同じような意見が出されている。

この地区に人口が予想以上に増えた場合については、それは正直言って嬉しい話ではあるが、一方で、他の地域では人口が減っている。とりあえずつくばみらい市のこの地区だけは増え続けている。ただ、陽光台小もこのように1,000人を超え、来年は1,200人を超えてしまうという状況なので、こういう大きい学校になると難しい問題も出てくる。しかし、(仮称)富士見ヶ丘小学校については、陽光台小学校よりも面積が5,000㎡と大きい。今建築をしている建物は床面積が少なく、まだある程度増築ができるような形で考えている。限界はあるが、児童数が増えても対応できると

思う。今の段階ではそのように、増築等で対応していく考えである。

市民： 人数が増えた場合の話については、おっしゃることはわかる。そのように推測されてというところはあると思う。しかし、今まさにそうなのだが、来年うちの下の子が小学校に入るのに、完全にキャパシティを超えている状態。そういうことが起こってきたときにどう対応するか、考える必要があるのではないか。想定しません、ありえませんが、でも結果超えました、その時考えましょうということでもいいのか。後手に回って不利益を被るのは、我々保護者。そこをもう少し考えてもらいたい。例えば、そういったところで意見を我々保護者に求めるのは、ありだと思ふ。簡単に言えることと言えば、例えば、プレハブでやるとかの話はあると思う。実際、自分は、中学校時代はプレハブ過ごしたので、それもありだと思ふ。別の観点からすれば、今陽光台小学校は、生徒がすごく多いのでプールの授業が全然回ってこない、うちの子から聞いている。そうであれば、逆に、人数の少ない学校に行けばたくさんプールの授業が受けられるのかなど。そういったメリットもあると思ふ。

選択制で学校を選ぶ方向もあるといつても、どうしても物理的な限界はある。

いろいろな選択肢があるのは然るべきなので、ぜひそこは対話をしていただきたい。申し訳ないが、今日もそうだが、教育委員会の方とあまりコミュニケーションを取れている気がしない。その辺りを少しお願いしたい。というのも、今回説明会にしても、説明会の開催が夜の7時というのは、どうやったら来れるのかという想いが本当にある。妻も本当は来たかったのだが、この時間は子供をお風呂に入れたりだとか、ご飯を食べさせたりだとか、宿題をさせたりだとか、そんなことをやっているのだから来れるわけがない。僕もここに来るのに仕事を早退して来た。こんな時間に開催するのは無理がある。周知方法のことを言っていたが、その方法ではないと思ふ。そもそも説明して意見を聞いてもらうためには、どういう会を催したら対話ができるのかということを考えているのか、ということに不満がある。今回は2回目である。前回の説明会でも私は同じことを言った。それでも変わらなければ、そういうことなのだとは私は理解する。是非、キャパを超えた時の対応は考えていただきたい。

事務局： 時間帯・日程については、本当に申し訳ないと思っている。次はもっと考慮したうえで開催したいと思ふ。

それから、今はプレハブでも結構良い建物になる。先ほど増築と言ったのは、そういう意味で言ったつもりである。ただ、それも土地がなければ増築できないので、そうなったときが非常に困るということ。なるべく、特別教室なども含めて、必要教室を確保しなければならない。そうするとどうしても、プレハブやそのような施設で授業をやっていかなければならない。さらに、それ以上に増えて、用地もなく施設を作ることさえできないとなると、その学校の校庭を一部潰してプレハブ等を作っていくしかない。それでいいかというのは別の問題だが、そうならないようにしたいと思ふ。

う。ただ、国の補助金をもらって建物を建てているのだが、増築の場合には、来年何人になる、再来年何人になるという確定的な数字がないと増築をさせてもらえない。大体は3年後の状態のみ。4年後にもっと増えると言っても、3年後までしか補助金が貰えない。そうすると、子供の数が増えているようなところは、毎年増築工事をやることになる。増築にあたっては、向こう3年分の児童数の状況に対応した分だけの補助金という仕組みがある。市の財政にお金があれば4年後、5年後を見据えて増築できるが、それもなかなかできない。年中少しずつ増築工事が入ってしまうことになる。対話や色々な機会をもってご意見を頂きながら進めていきたいと我々は考えている。色々な制約がある中で一番いい方法を考えていきたい。良い知恵があったらお願いしたいと思う。

市 民： 陽光台に住んでいる。この意見交換会の主旨と外れるかもしれないが、お聞きいただきたい。うちの子が高学年になるので、そろそろ中学に入る準備をしなければならない。現状だと、おそらく陽光台小学校の子どもは、谷和原中学校か伊奈中学校の選択性となるというふうに聞いている。一方で、みらい平地区に新たな中学校が建てられるように土地が確保されているという話も聞く。ただ、いただいた資料を見ると、小学校の統合だけで平成35年までかかるとのことで、新たに中学校ができるのだろうかと思う。できないのであれば、(仮称)富士見ヶ丘小学校から移ったタイミングで中学校の学区割りが変わる可能性があるのか。そういったことを教えていただきたい。

事務局： (仮称)富士見ヶ丘小学校が開校した時点での中学校区がどうなるかというご説明をさせていただきたいと思う。今、学区審議会の中でも、みらい平地区における中学校区について審議いただいている。現在、伊奈中学校区は、陽光台小学校区と同じ考え方で、陽光台の1丁目～4丁目、紫峰ヶ丘1丁目、4丁目、5丁目、この地区が伊奈中学校区という方向性で出ている。一方、谷和原中学校区は、富士見ヶ丘1丁目～4丁目、紫峰ヶ丘2丁目、3丁目。小学校と中学校で同じ学区割りという方向性になっている。この選択制についても、(仮称)富士見ヶ丘小学校の開校と同じ想定のため、この学区にいても平成30年4月からということで方向性が出ている。あとは学区審議会の付帯意見。学区はこうですよという意見として出ていますが、ただし、こういうことを考慮してくださいというのが付帯意見ということで、ご理解いただければと思う。そういったところで、平成29年度に卒業して、平成30年4月に中学一年生になる子については、今私が申し上げた平成30年4月から伊奈中学校区と谷和原中学校区が決まりますが、平成30年の時の1年生については、陽光台小学校の全員が卒業して中学校に入るの、そこまでは選択制を認めても良いのではないかと付帯意見も頂いている。

事務局： 中学校が建設されるかというご質問について。みらい平地区には、中学校用地とし

て県の土地を確保させていただいている。当時このみらい平地区を開発する時に、（合併をする前の市町村の時に）この一帯を開発する計画として、伊奈町の方には小学校を、谷和原の方に小学校と中学校を1校ずつ作っていきこうとなり、建設用地を確保することになった。現状では、伊奈中学校と谷和原中学校に通ってもらっているので、中学校を新たに作る予定はない。しかし、今後、作るとも作らないとも言えない。曖昧な回答で申し訳ないが、そういうことでご理解いただきたい。

市 民： 要望としてお受けいただければと思うが、私の子は陽光台に通っているのだが、谷原小学校に行ったあと、陽光台に通っている。今は陽光台2丁目に住んでおり、今のお話だと、うちの息子は平成31年の4月に中学生になるので、一律伊奈中学校に行くことになると思われる。谷原小学校に行っていたときに、親しくしていた子たちもいる。当然今は違う小学校なのであまり会う機会もない。うちの子どもに直接は聞いていないが、どちらかを選ぶということになれば恐らく、選べるのであれば谷和原中に行きたいと言うと思う。そういった子供たちの思いもなるべく汲んでいただけると嬉しい。

市 民： 引き続き中学校の件になるが、うちの子供は、小学校2年生で、陽光台小学校に通っている。その後、中学校に入るとなると、伊奈中学校に入るというお話だと思うが、今の中学校で、きちんと定員数が入ることができるのか。

事務局： 先ほど私の方で申し上げた伊奈中学校区と、谷和原中学校区が30年4月から決まった場合に、学校のクラス数・教室数が間に合うのかという質問と思うが、今の想定からいくと、伊奈中学校につきましては平成42年までの推計では、伊奈中学校のキャパシティ的には十分間に合う状況である。

市 民： 今、上の娘が中学校2年生で、谷和原中学校に通っている。部活が終わると真っ暗な中を帰ってきている状態。今は大通りを通っており、交通量もあるので大丈夫と思うが、伊奈中になると、自転車で真っ暗な中を帰ってくることになり、非常に不安。その辺りはどうお考えか。

事務局： 通学路の安全面として、交通・防犯の面から心配だということがある。学区審議会の中でも、付帯意見として、中学校に関しての通学路については、学区は決まるけれど、通学路の安全性について、教育委員会だけではなくて道路管理者や警察、防犯関係を管理している安心安全課、そういったところと連携を取りながら安全対策をしてくださいというご意見を頂いている。こちらについても平成30年に向けてやれるところからやっていきたいと考えている。

市 民： 先ほど伊奈中学校のお話しをされた時に、キャパシティの話があったが、どのぐら

いのキャパシティがあるのか具体的に数字で見えた方が良いと思った。それは後ほど調べていただくとして、今、伊奈中学校の通学路に関する話があったが、今具体的に防犯をどうするという施策は色々あるようだが、それについて、こういう方針でやっていくとか、例えば道を広げるとか、これが一番安心だが、今の流れでいけば、私の家は紫峰ヶ丘2丁目なので、伊奈中学校に通う方になってしまうのだが、谷和原中学校にしても、例えば道が水没したりだとか、結構危ない所があるというふうに聞いている。雪が降ったりしたときに、坂が心配だということもある。やはりそこは、子供たちの安全を考えてということで、実際にこれから子供たちの通学環境が大きく変わっていく中で、どういう対策が講じられるのかとういことをしっかりした情報として出してほしいと思う。繰り返しになってしまうが、どのようにされているかということが見えないから皆色々な噂をするし、僕らはその噂に右往左往する。あなたたちは噂に振り回され過ぎですというようなことを数年前に市から言われたが、噂に振り回されざるを得ない状況を作っているのはそちらでしょうという面もあるので、色々と情報を出していただきたい。

事務局： 1点目について。現在の中学校の教室数、それから平成42年度までの想定をしているが、その中でも一番多くなるクラス数を申し上げますと、伊奈中学校は、普通教室が現在26教室。一番多くなると想定しているのが平成39年で23学級という想定。つまり普通教室の数は、十分間に合うという想定。一方、谷和原中学校は、普通教室が現在13教室。一番多くなると想定しているのが同じく平成39年で20学級を想定しているので、7学級の不足が想定されている。こちらの不足分についてはプレハブで対応していきたい。

2点目について。通学路の安全対策をどんな事をどのようにやっていくのかという情報開示についてだが、こちらはできるだけ(案を)出していきたいと考えている。若干脱線するかもしれないが、市において、小学校の部分では通学路の安全プログラムということで、5年計画の中で危険個所の洗い出しをし、本年度まで毎年計画的に警察や茨城県、市で色々な対策を行ってきた。これらについても、来年度以降、新たな中学校の通学路等についてもその計画に入れていくことができるかと考えているので、どんどんバージョンアップしながらできるだけ分かりやすい形で公表していけたらと思う。

市民： 少し脱線しますが、陽光台小学校に関連して、私の通っていた新潟の小学校でも生徒数が減ってしまっていて、廃校になってもおかしくないという話があるのだが、通っていた人たちからしてみればゼロになって無くなってしまふのは悲しいこと。僕は、(仮称)富士見ヶ丘小学校ができると聞いた時に、そうであれば、伊奈中学校と谷和原中学校を合併して、こちらにもってくるということにならないかと色々思っていた。新しいものを作るのは簡単だと思うが、歴史を消すというのは悲しいものが色々あると思う。なので、富士見ヶ丘の方は新しく小学校を作ることが決まっている

と思うが、無くなる学校の立場や歴史を残すような形を、何か工夫をしていただけないかなと思う。僕は、せっかくこのつくばみらい市に入ってきたが、陽光台の周りの歴史に触れる機会というものがあまりないという気がしている。市内の色々なところへ行っているが、みらい平地区は、みらい平地区で固まってしまっているという感じがする。色々なところでまちの接点があつていいと思うので、つくばみらい市というのは伊奈と谷和原からできているというところも知っていてほしいし、そういったところも少し考えてほしいと思う。

事務局： 今、仰った事に私も同感である。先ほど利活用の話をされたが、今、仰ったようなことがいつも頭の中にある。廃校となってしまう学校の説明会、近隣でも先ほど申し上げたようにあちこちの町で廃校となるところがあるのだが、やはり自分たちの学校が今までどのようにここまできたのかという 100 年の歴史があるので、そういった歴史をなんとか残していこうという取り組みがあちこちで行われている。地域の人たちと思い出の部屋をつくったりとか、そのような取り組みもひとつあるし、私としても活用したいことがいくつもある。廃校になったあとも、地域の人を巻き込んで、みらい平地区の皆さん、既存地区の人たちが一緒になってまちを盛り上げていければと思う。そういうことが、私がいつも言ってきたこと。交流などもどんどん広めていきたいと思っている。ご意見ありがとうございます。

事務局： 児童数の少ない学校の周りに住宅が建ち、新しい若い人たちに住んでいただければ一番良いと思うが、今から区画整理を行うだとか、住宅団地を作ろうとしても、人が住んで人口が増えるのは 10 年、20 年先。特に、陽光台小学校と小張小学校を一緒にしようという発想も、陽光台小学校が大規模な児童数を抱えたままなので、去年出した推計では落ち込んでいく予定だったが、今年出した推計では 1,200 人近くになっており、まだこれが数年続くのかなと思われる。そういうところから非常に微妙なところである。なので、仮に陽光台小学校に通っている方々、もしくは、これから通う方々が、本当は陽光台小学校の学区なのだが、小張小学校に通いたいという方々がいらっしゃれば、小張小学校は 70 人・80 人程度の学校で、(児童数が) 少ない学校なのだが、将来も含めて、そういうことも可能になってくるのかなと思う。小張小学校の地域の方も、保護者も、それを望んでいるのだが、行政で仮に、陽光台地区を何丁目は小張小学校に行つてほしいというように分けることはできないと思う。区画整理事業でみらい平地区に小学校を作るということは、ある程度約束事になっていると思うので、学区を割るということは難しいかなと思う。そうすると、任意という形で、私はこの学校に行きたいという方がいらっしゃれば、基本的には難しいがなんとかしてあげたいと思う。こういう機会なので、ここにいらっしゃる方の中で、小張小学校に下の子を入れたいという方はいらっしゃいますか。本当に、救いたいと考えている。

市 民： 大人の尺度で考えない方が良いと思う。アンケートでも取ったら良いのではないだろうか。

事務局： アンケートであってもなかなか言えないことだと思う。ただ、小張小学校の説明会では、小張小学校はいい学校で、綱火などの文化伝統などがあると多くの人が言っていた。東小学校もそうである。お年寄りが学校を舞台にしたイベントなど、色んなイベントがある。そういったものも、子ども達がいなくなったら、本当に寂れてしまうのではないかと、そればかり考えている。だが、そんなことはないと思う。校舎は残るのだから、子どもたちが別の小学校に行くことになっても、こういう祭りがあっても一緒にやろうとなれば、必ず子どもたちはいるのだから、きっとまた新しいお友達を連れてきて、またたくさん集まるかもしれない。なくなることを考えているとそうになってしまうので、そうじゃないというようなことをお伝えしたい。この学校をまた生き生きと活用していきましょうよということを言いたい。

市 民： 市も少しやり方を変えるような姿勢もあったほうが良いのでは。今までとは時代が違うので難しいのではないかと思います。

事務局： いろいろと考えており、頭の中にはいろいろあるが、現在は、今いる子供たちをどうするべきかと考えている。

市 民： 頑張ってください。

6. 閉会

事務局： 本日は大変貴重なご意見を頂きありがとうございました。日程的なことが影響し、参加者が少なかったことを反省しております。それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以上